

第1回 カブトエビ・シンポジウム

田んぼの生物多様性保全とカブトエビ農法の可能性を探る
～日本における「ヨーロッパカブトエビ発見60周年」記念～



カブトエビは2億3000万年前に地球上に誕生した「生きた化石」です。なかでも「ヨーロッパカブトエビ」は最も古い形態を残し、日本では1948年に山形県酒田市広野の水田で初めて発見されました。その後、県の天然記念物に指定されましたが、近年の水田環境の変化や農薬等の影響により、その生息域、生息数が減少し、現在では県レッドデータブックに記載されています。

シンポジウムでは、古生代から命をつないできたこの「ヨーロッパカブトエビ」の生息できる環境を残す方策とともに、「田んぼの草取り虫」として有機農業等での安定的な農業利用の方法について考えます。

日時：2008年12月5日(金) 13:30～16:30 (入場無料、どなたでも参加できます)

☆ 16:45～18:00は、参加者による懇談会を開催〈地域共創センター共創カフェ〉☆

場所：酒田市公益研修センター・多目的ホール (東北公益文科大学公益ホール)

会場のお問い合わせ 〒998-8580 山形県酒田市飯森山3-5-1 東北公益文科大学 地域共創センター
電話 & FAX 0234-41-1065 E-mail: kyoso@koeki-u.ac.jp

<プログラム>

基調講演 「日本産ヨーロッパカブトエビの由来と田んぼの生物多様性保全」 (東北公益文科大学 五十嵐敬司)

事例報告 「カブトエビ除草を利用した有機農業の取り組み」 (生産者 吉田正行<南陽市>)

研究報告 「ヨーロッパカブトエビの卵の不思議と飼育への応用」 山形大学農学部 (後藤三千代、青柳桐子)

「カブトエビを中心とする水田小動物群集の継時変化～酒田市飯森山における調査をもとに」

東北公益文科大学 (五十嵐敬司、呉尚浩研究室メンバー)

「水田におけるカブトエビの除草効果と農薬が水生動物に及ぼす影響について」

山形県立農業大学校 (2学年 佐藤健太、蛸井利明、高橋孝行)

報告者によるパネルディスカッション 「カブトエビの農業利用の可能性について」

主催：カブトエビ研究会 (プログラム内容のお問い合わせ：0234-24-0947 五十嵐)

共催：東北公益文科大学 地域共創センター、山形大学農学部、山形県立農業大学校

後援:山形県庄内総合支庁 鶴岡市 酒田市 三川町 庄内町 遊佐町 JA全農山形庄内本部 JA鶴岡市 JA庄内たがわ
JA庄内みどり JA酒田市そでうら JAあまるめ 庄内農業共済組合 農村通信社 山形新聞・山形放送 庄内日報
朝日新聞山形総局 毎日新聞 読売新聞山形支局 コミュニティ新聞社 月刊SPOON編集部
NHK山形放送局 山形テレビ さくらんぼテレビ テレビユー山形 酒田エフエム放送